

2024/2/5 (月)

朝の礼拝

聖書 レビ記 19章 33-34節 (旧約聖書193頁)

寄留者があなたの土地に共に住んでいるなら、彼を虐げてはならない。あなたたちのもとに寄留する者をあなたたちのうちの土地に生まれた者同様に扱い、自分自身のように愛しなさい。なぜなら、あなたたちもエジプトの国においては寄留者であったからである。わたしはあなたたちの神、主である。

国籍

徳川幕府260年の鎖国政策のおかげで、日本は欧米の列強から侵略されなかったと言われます。しかし幕末の黒船来航、また太平洋戦争敗戦と、二度の開国がありました。そして、今、少子高齢社会となり労働力として外国人を受け入れている第三の開国の時代とも言われています。

実は新型コロナや円安の影響もほとんどなく、外国人労働者の方たちは増え続けています。製造業が盛んな東海地方は顕著で、静岡県は全国七位です。ベトナムや中国、フィリピンの方たちが多いです。遠い故郷を離れ、家族と別れ、とても寂しく、言葉や生活に馴染めず、辛いことも多いと思います。

聖書の民もヘブライ人、古代イスラエル人、ユダヤ人、そして現代のイスラエル人と名前を変え、約3500年にわたり土地も住む家もない寄留者、旅人でした。特に第二次世界大戦ではナチスによる大量虐殺を受けました。彼らは土地も家もない、国籍のない、国と国の辺境をさまようこの世の旅人、寄留者でした。

でもよく考えてみると、わたしたちは自分がいつ、どこで生まれるかわかりません。いつ誰と出会い、誰と別れ、どこへ向かう

のかもわかりません。わたしたちの人生は旅です。出会った者が互いに愛し合うところがわが家になります。神様の愛が実現するところが故郷です。わたしたちの国籍は天にあるのです。

(しばらく黙祷しましょう)

慈しみ深い主よ、いつの時代も戦禍に追われ、災害によって被災し、故郷を離れ、家族が別々に暮らす方々がいます。わたしたちは誰もがこの世では旅人、寄留者です。いつも、どこでも、互いに愛し合う一日でありますようにお導きください。また明日は高校入試となります。すべての受験生の健康を守り、御心にかなう道が与えられますように。どうか、今日一日もすべてをあなたに委ね、喜びと感謝のうちに過ごさせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン